

ほくじょう なかま
牧場の 仲間たちの くらし

わたしたち かた ことば
私達の 語る 言葉



じぶんたち かた ことば なに な う するが、知ってるかい？
自分達の 語る 言葉が 何を 成し得るが、知ってるかい？

おたがいと なに はな を話しかってことだよ。
お互いと 何を 話しかってことだよ。

ただ はな かた はだれかの いちいち あか 1日を明るくできるけれど、
まちがった 話し方は 心を きずつけ、おさえこんでしまうんだ。
まちがった 話し方は 心を きずつけ、おさえこんでしまうんだ。

ほくは なかまたち とちがいあ 合った。
ほくは 仲間達と ちがいあ 合った。

おたがい、はげみになる はな かた 話し方をしようねって。
お互い、はげみになる 話し方をしようねって。

そして、もしプライベートな ことを 聞いたなら、
そして、もしプライベートな ことを 聞いたなら、

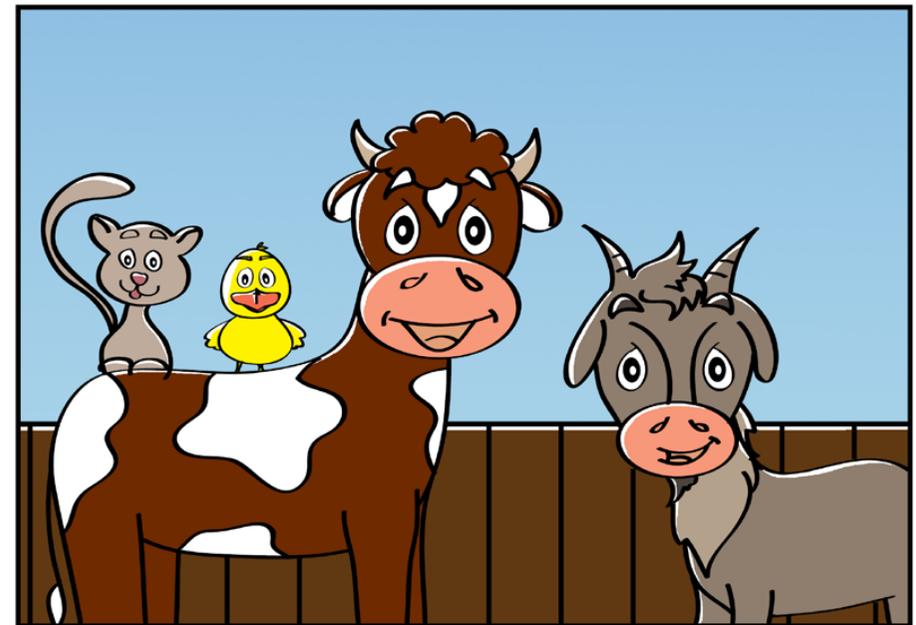
それを まわりに べらべらしゃべらないってね。
それを まわりに べらべらしゃべらないってね。



あいて 相手のために ^よ良かれと ^{おも}思ってプライベートなことを
^{こうがい}口外してしまうのかもしれないけれど、
もしそれが ^{ほか}他の ^{ながま}仲間を ^ひ引き下^さげたり、
きずつけたりしているなら、どうなんだろう？

はげみになる ^{はな}話し^{かた}方で、
だれかを ^{かがや}輝かせてあげられる
^{たいせつ}大切な ^{じじつ}事実を ^{はな}話すのはいいんだけどね。

ぼくは ^{ながま}仲間^{たち}とよく、
^{のうじょう}農場で ^{なに}何が ^お起こっているかを ^{はな}話すんだ。
みんな、^し知りたいことだからね。
^{こじんてき}個人的な ^{いけん}意見も ^{はな}話したりするんだ。

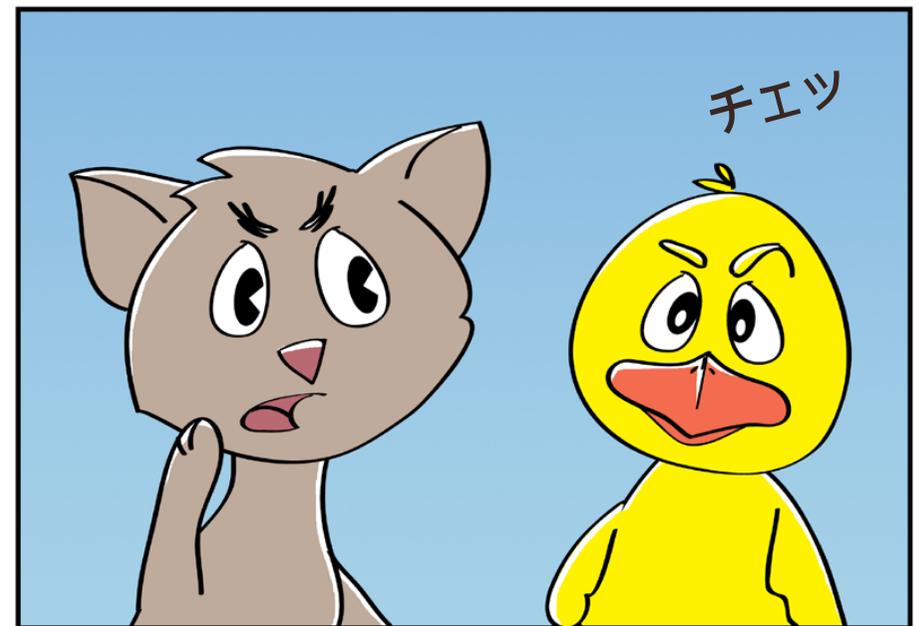
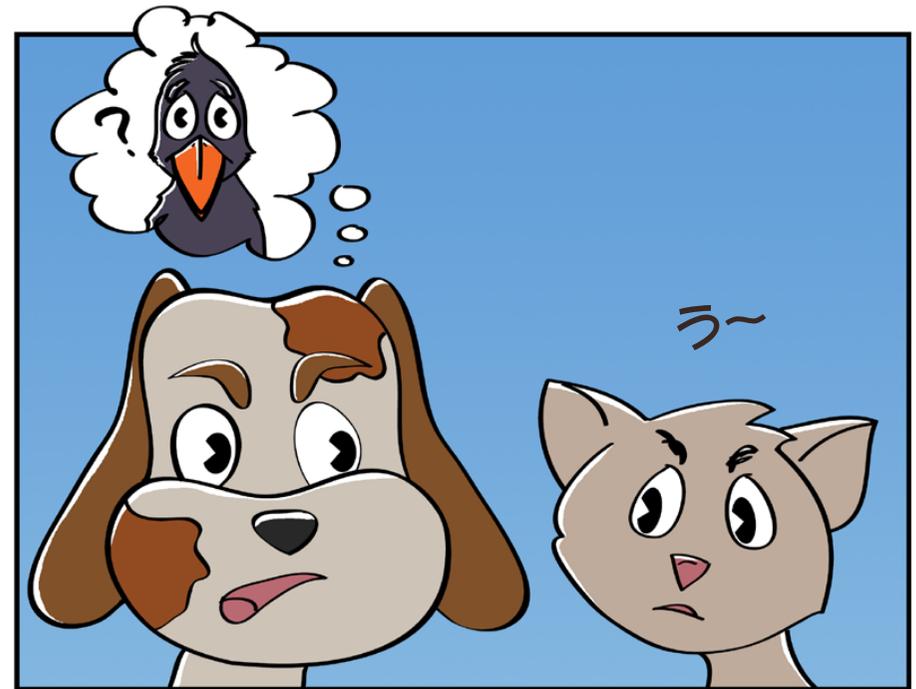


だけど、だれがについての
きょうみほんい はなし き
興味本位の話^きを聞いたら、
きょうだいしまい まも
兄弟姉妹^{まも}を守るためにも、
だまっているのが ^{さいぜん}最善だよね。



ある時^{とき}、ビーブビーブがある話^{はなし}をしてくれた。
プライベートなことを打ち明けてくれたんだ。
ビーブビーブには ^{かんが}考えるための ^{じかん}時間が ^{ひつよう}必要だった。
うわさ話^{はなし}にしてほしいようなことではなかったんだ。

ビーブビーブとほくは ^{しんゆう}親友だったけど、
とても ^{かな}悲しいことが ^お起きてしまった。
ほくは、聞いたことを ^きネコ達^{たち}に ^い言ってしまった。
じきに、アヒル達^{たち}やにわとり達^{たち}にも ^{はな}話^{はな}してしまっただ。



おおぜい
大勢がしてる ことだから、
べつ 別に そう 悪くはないでしょって
い
言うかもしれないけれど、
ながま 仲間を 気に かけているなら、
いつか こうかいするだろう。



ほんとう 本当
と お その通りよ。

ほこれるような ことじゃないわ。

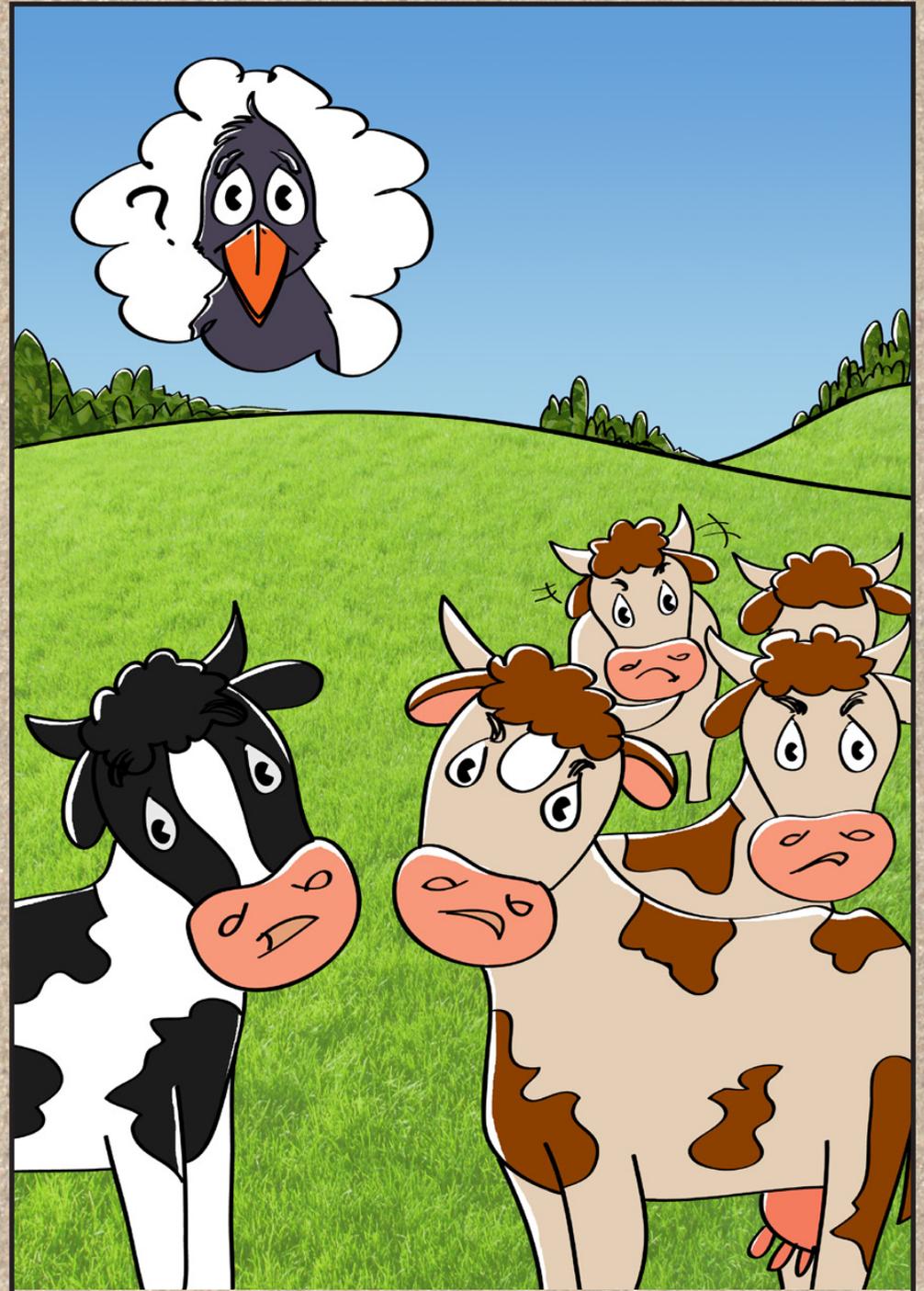
さいしょ 最初
たの 楽しいかもしれないけど、やっぱり、
ほか 他の ながま 仲間達について うえ 上から めせん 目線
はな 話すのはね。



や ゴシップ屋になつたのは 彼らだけじゃない。
かれ

ほくだって、おなじ ことをしてしまつたからね。
おな

ほくの 場合は、ねたみに あおられてしまつたんだ。
は あい

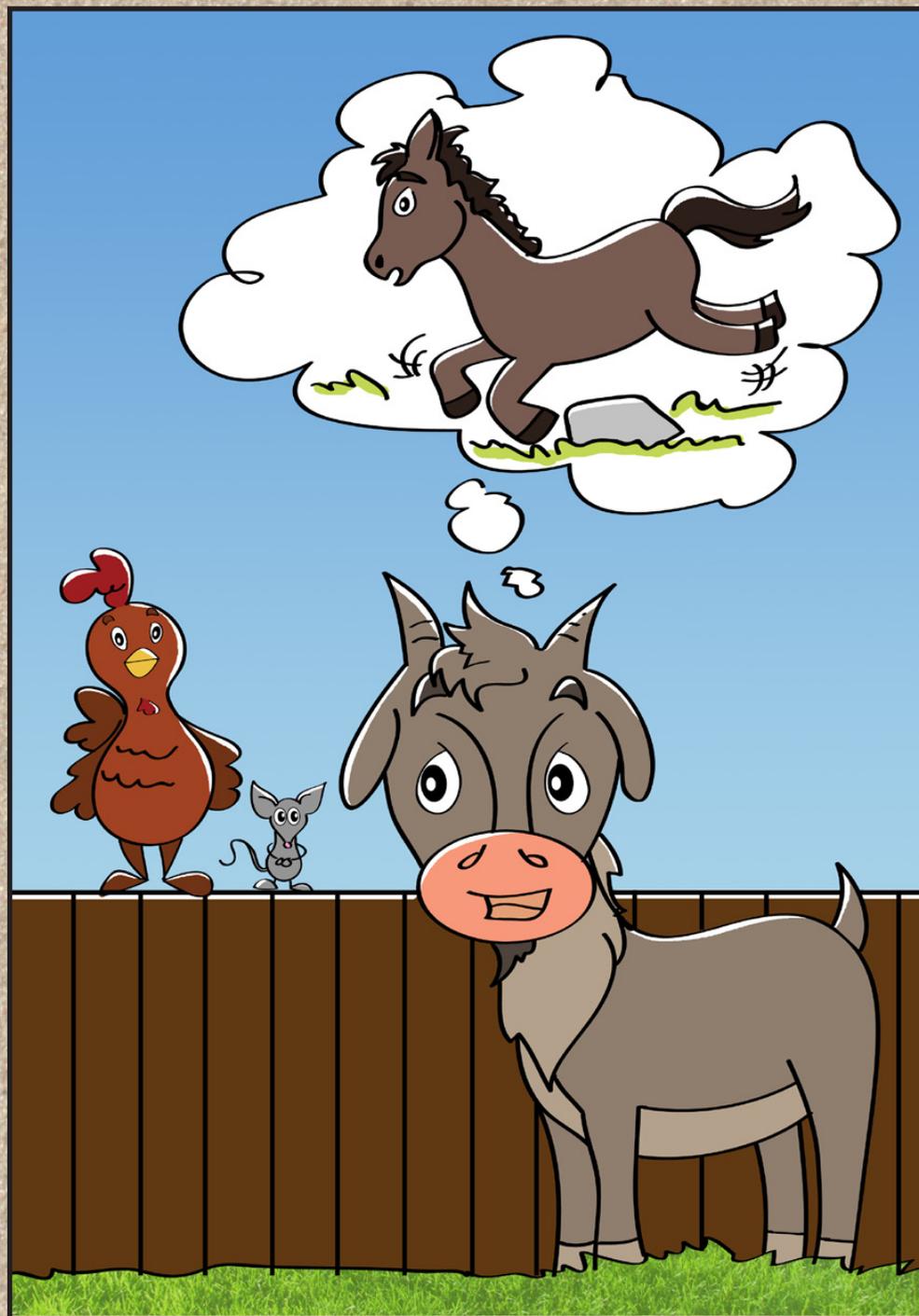


ほくって、^{しんい}新入りだったでしょ。
ここで^う生まれたわけでもないし。
^{なかま}仲間をけなせば^{きぶん}気分が^は晴れると^{おも}思ったんだ。

ほくは^{ほくじょう}牧場の^{なかま}仲間にはじを^{いじわる}かかせるような
^{ひろ}意地悪を^{ひろ}広めてしまった。
^{じぶん}自分が^{ゆうえつかん}優越感を^{かん}感じるためにね。
だけど、こんなやり方は^{どろぬま}泥沼だった。



^{ふしんせつ}不親切な^{ことば}言葉は^し知らず^し知らずのうちに
^{ひろ}広まってしまうものだわ。
^{きょうみ}興味本位で^{なに}何がを^い言ってしまうのはたやすいこと。
それが^{しつれい}どんなに失礼な^い言い方でもね。^{かた}





それって、^{てんせん}伝染しやすいものね。
^{きょうみほんい}興味本位の ^{はなしひろ}うわさ話を ^{ひろ}広めてしまうのは。
^{はなしお}話に ^お尾ひれがつくこともよくあるわ。
^{よけいけいようし}余計な ^{けいようし}形容詞がついたりしてね。



こんな ^{はがいこうい}破壊行為は もう やめなくちゃって、
みんなが ^{おも}思った。
おたがいと ^{ゆうじょう}の ^く友情から ^{よろこ}来る ^{よろこ}喜びが、
^{はなし}うわさ話に ^{ゆちゆう}夢中になるあまり、^{わす}忘れられていたからね。

ビーブビーブは、ほくたちが ^{なかまどうし}また ^{なかまどうし}仲間同士に
もどれるようにと、^{すす}進んで ^{とく}取り組んでくれた。
ゴシップを ^{はじ}始めたのは ^{はじ}ビーブビーブじゃ ^{ないけれど、}ないけれど、
それが ^お終わるようにと、^{こうどう}行動に ^て出てくれたんだ。





い 言うべきじゃ ないことを い ひろ はし 言い広め始めたのは

ぼくじゃ ないかもしれないけど、

それくわに 加くわわってしまじじつった ことは 事実じじつだし。

ぼくながまだはなしって、仲間の うわさ話ひろを 広めてしまなったからね。

けっきょく 結局 ぼくは さびしく なって、こころ 心も いたがった。

仲間ながまの みんなも 同おなじだった。

ふしんせつ 不親切な ことば 言葉で みんなが きずつこころいてあらたいたから、

もう 心こころを 改あらためる 時ときだと思おもったんだ。

ぼくは みんなを よ あつ 呼び集めて、

自分じぶんの あやまちを あやまなった。

みんな、おたがいに かな 悲かなしそうかおな 顔かおをして、

けっきょく 結局、ほんね 本音ほんねを 語り合かたあったよ。





ぼく達は、不親切なうわさ話を
流していたことをあやまり合った。

これからは、たがいをささえ合う
話し方をしようってちがったんだ。

本当の友情が、ぼくたちの目指すものになった。

仲間達が気づかれ、幸せなら、

おたがいにとってもいいことなんだ。

ぼくは、仲間を元気づけるが悲しませるかで、
自分の話し方の良し悪しが分がると知った。



ぼく達はみんな、仲間。

人生には仲間達がいるのが最高さ。

おたがいについて語る言葉は、これからは、

友情を取りもどし、友情を築く話し方にするからね。

文：クリスティ・S・リンチ 絵とデザイン：ロイ・エバンス
出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2018年、ファミリーインターナショナル
"The Life of Friends: Our Words"--Japanese

関連の読み物はこちら ⇒ 子供のための物語、友情、思いやり、神の愛の律法、牧場の仲間たちのくらし

